



敬称略

★民主党菅政権は予算を衆院で通したにもかかわらず、ますます混乱の度合いを深めている。国民新党代表・亀井静香や新党日本代表・田中康夫が言う「救国内閣」論が現実味を帯びてくる。オールスターで構成する内閣で国を救う。それも今までの価値観にならないものを、と言う。

★政党を守るのか、議席を守るのかという議論かと問うと、田中は「政党政治や議院内閣制をきちんと機能させる。連立というのは、国民からは『翼賛的』と風われてしまう。それぞれに光り輝いている人間が出てきて、この人が外交やつてくれる、この人が財政やつてくれる、この人が国土交通やつてくれる。だから期待できるものなり、みんながマエストロである首相の元に動いて、しかし首相の述べるところに至らないところがあつた、きちん

とそれぞれの大臣が自分のためだけでなく、国民国家のために意見を言う中で活性化する」。

★どうやら与党の中から人材を選ぶとか、連立を組んで組閣という概念から外れ、各界から人材を広く求める。つまり、野党からでも一本釣りすることもあり得る。場合によっては、都知事・石原慎太郎も都知事のまま閣僚に就任することもあるという考え方だ。昨年、元首相・森喜朗や自民党元幹事長・中川秀直らが民主党首脳に進言したプランのより柔軟なもので、経済財政担当相・与謝野馨入閣の進化版というところだ。それでも無

論首相は誰にするかが問われるが、狭い中から選ぶ組閣ではなく、広く人材を集めて国家の危機を救おうというものだ。その意味では首班指名を受ける前に組閣名簿を国民に示すくらい覚悟がいるだろう。それだけ首相は指導力と調整力にたけた人物である必要がある。さて首相は国会議員から選出と法で定められているが、国会議員の中から誰を想定するか。

(K)